東北大学附属図書館報
木這子
BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

吉岡孝治郎元事務長を偲ぶ

洋書目録掛長　小　野　和　夫

附属図書館元事務長吉岡孝治郎氏には，去る3月7日，満90才の天寿を全うされました。謹んで御冥福をお祈りいたします。吉岡さんは本学が生んだ図書館界の大先達であり，戦前戦後を通じ我国大学図書館活動の方向付けに貢献された方々の中でも最右翼に位置する方でした。

吉岡さんの御経歴と数々の御業績については，附属図書館長尾公司前事務部長，馬場重徳図書館短大名誉教授御両名の追悼文（「医学図書館」30巻2号昭58）に精しく御紹介されております。そこで，御生前何かとお話しを承る機会に恵まれた者の一人として，若き図書館員に対する吉岡さんのお言葉を二三御披露申し上げ偉大な先輩を偲びたいと思います。

「先づターミノロギーを徹底的にやりなさい，これは先生方とのコミュニケーションの基礎です。これがなければリファレンスワークは成立しません」と常に強調されました。現役時代は常に数十種に及ぶ欧米の医学雑誌を通読され，その修練と蓄積があってこそ「何を訊ねても立ちどころに最新の関連文献を示していただいた」という先生が多く，リファレンスという言葉を簡単に口にしている私共が先づ傾聴すべきことだと思われます。

また，「チャレンジ」「実戦的」という言葉もよく言われました。「相当乱棒なことを申上げても佐武先生（生理学，のち総長）はよく聴いて下さり図書館の万般に亘り強力な御援助をいただいた」そうですが，医科分館時代の数々の図書館サービスのプランも，欧米の雑誌からヒントを得ることはあっても，当時の学部では仲々受容れ難い状況の中で，吉岡さんの企画が「サイエンスを援助する技術」としての図書館サービスを目指していることに理解を示された佐武先生の御見識と，吉岡さんのセンスと熱意，即ちチャレンジの精神があって初めて実を結んだのではないでしょうか。

特に頻繁に言われたのは「フレンドシップ」でした。昭和4年以来日本医学図書館協会という国公私立大学を横断する非官制組織の重鎮として各種事業を推進されましたが，特に各館の初代司書の方々との交流は素晴らしく，遠隔地にあり，さまざまの悪条件の中で次々と協力体制を組み実現された原動力は，図書館の理念と，図書館員としての行動原理が一致していた若き司書達の「フレンドシップ」と吉岡さんの強力な「リーダーシップ」だったのです。「昭和8年遠く関西の大学に在って学位論文を完成できたのは，次々と参考文献を書留便で送って下さった吉岡さんのお蔭です」とある名誉教授が話して下さいました。「フレンドシップ」は司書仲間だけではなく，その効用は半世紀前から学外の研究者や市中病院の医師にも及んでいたのでした。

また，「私は，誠に幸運でした。開学2年目の活力溢るる東北大学に採用され，林鶴一先生（数学，初代館長）から英語を，田辺元先生（哲学者，科学概論）からフランス語を，田中敬さん（のち司書官）から書誌学と図書館技術を，そして医科分館に移ってから佐武先生の御指導を受けたことです。」吉岡青年の才能と素質を逸早く見抜き，若い芽を育てて下さった本学初期の諸先生に対する尊敬と感謝の念を話されなかったことは一度もありませんでした。

吉岡さんは，何んといっても東北大学が生んだ我国大学図書館界の先覚者なのです。

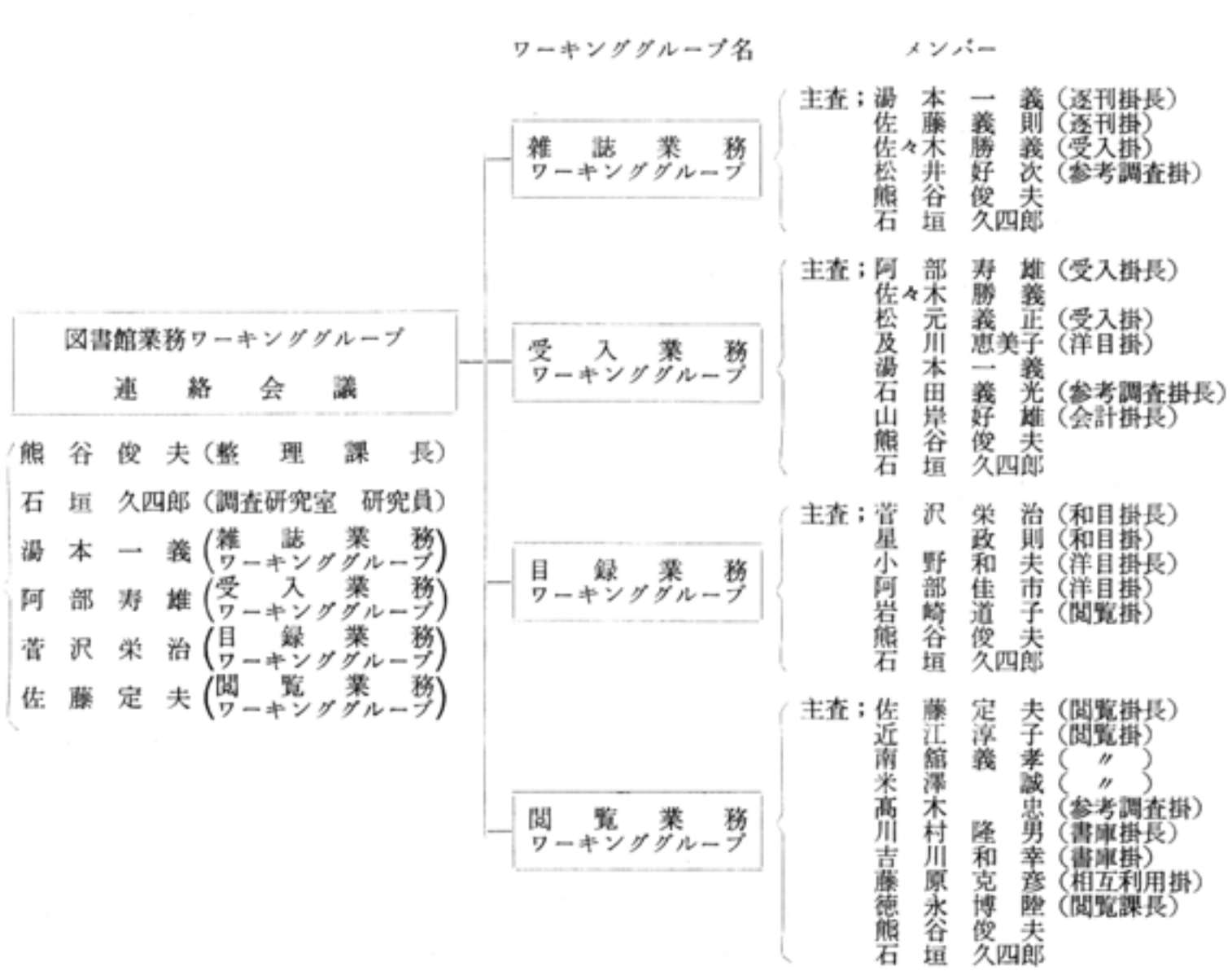
図書館業務機械化計画実施のための ワーキンググループの編成について

本学における図書館業務機械化計画（本誌第8巻第1号p. 7～9）の実施を図るために，機械化対象業務としている雑誌，受入，目録，閲覧の4つの業務についてワーキング グループを設置した。各ワーキンググループは，それぞれの業務について，システム基本計画（概要設計）を昭和59年3月までに作成することを目途とし，雑誌業務ワーキンググループは，本年5月から，他の3つのワーキンググループは7月からそれぞれ検討を開始した。なお，前述以外の業務（文献複写，参考調査など）については必要に応じてワーキンググループを設置することとしている。

さらに，上記各業務はそれぞれが有機的に連結したトータル システムを指向することから，4つのワーキング グループ間の共通的問題に関する連絡調整や全般的計画のまとめ等の役割を担うためにワーキンググループ連絡会議を設置している。

各メンバー構成等は次図の通りである。（整理課長）

図書館業務機械化ワーキンググループ　（昭和58年8月現在）



目録検討委員会の設置について

本年5月，本館に常置の委員会として目録検討委員会が設置された。目録は図書館の利用者にとっては図書資料を検索するに際し欠かせない手段（道具）であり，図書館の閲覧業務，参考業務にとっても同様である。受入れられた図書資料を整理する過程で，中心となる目録業務においては，標準的な諸目録規則に厳密に準拠して統一性，整合性のある目録が作成される。標記委員会は，図書資料の整理業務上必要な諸規準を維持すること及び目録に関連する種々の問題について改善するための案を作成する役割とをもつ。当面の具体的な検討事項としては，カード目録体系，全学総合目録（ユニオンカタログ），ロケーション表示，目録業務機械化に備えての対応などがあげられる。委員の構成は，整理課長，和漢書目録掛長，洋書目録掛長及び和漢書目録掛・洋書目録掛・参考調査掛・閲覧掛から各1名の計7名である。

なお，これより先，昨年12月，図書資料の整理業務において，近年目録カード繰り込み量が増加してきているために，その繰り込みの慢性的遅れが，利用者や参考業務等に与えている影響が大きくさらに整理の遅れの一因にもなっていることから，その解決策を検討するために目録検討委員会が設置されており，本年3月までに検討した結果が5月にまとめられた。その骨子は，増加する目録カードを遅滞なく繰り込むためには，現行カード目録体系の編成種類の削減しかなく，しかも利用者への質的サービス低下を招かない範囲で行うためには，これを事務用カード目録で行うこととされた。すなわち，閲覧用分類目録に代えて事務用書架目録を移設し，閲覧用分類（兼書架）目録として編成し，事務用もこれで共用することとした。全体で一種類のカード目録の繰り込みを省力化した分は，カード目録のカレントな状態の維持や全学総合目録の整備を含め整理業務全般の迅速化に充てることとした。以上の案は，部課長会議等の了承を経て，6月から実施された。

この検討の過程において，目録に関連する検討事項が種々提起されたことから標記の委員会を常置として存続することとしたものである。

（整理課長）

学術雑誌総合目録和文編データベース編集のためのデータ提出について

学術雑誌総合目録は，全国の大学及びその他の研究機関等に所在する学術雑誌のデータを収録したもので，相互利用にとって極めて重要なトゥールである。最近における同目録のデータベースによる編集は，東大情報図書館学研究センターの事業として電算機処理により行われており，これまで欧文雑誌についての1979年自然科学編，1980年人文・社会科学編，1982年補遺版と3編の完成をみた。

和文雑誌データベースの開発事業は，旧版以来15年ぶりに開始され，本年度新設された東大文献情報センターへと引継がれて行われている。この程，同センターから各大学等関係機関に対し，和文雑誌データの提出について依頼がなされた。

本学においても，7月以降，本館，各分館，部局図書室等において，多数の関係者により，所蔵データの作成と現物照合を，10月末の提出期限を目途に鋭意行っているところである。

各機関の協力によるこのデータベースの完成によって，相互利用に資するトゥールが作成される

とともに，我が国の逐次刊行物に関する代表的なナショナルビブリオグラフィーともなり，さらには，将来の電子メール方式による学術文献のＩＬＬ（図書館間相互貸借）システム（昭和57年度学術情報センターシステム開発調査概要）稼動のための基盤となることも期待され，その意義は極めて大きく，この作業に対する関係者のご協力をよろしくお願いする次第です。

この和文編データベースには，約700の機関が所蔵する４万タイトルの学術雑誌を収録し，昭和60年春に完成する予定であり，データベース編集の方針としては次の点があげられている。

① リソースシェアリングを主目的とした総合目録のデータベース開発

② 人文・社会科学，自然科学全体を総合した応用範囲の広いデータベース開発

③ 電算機による日本語処理をふまえ，今後の学術図書館の発展に対応した書誌情報，所蔵情報のデータベース開発

なお，前記の欧文編３編については，冊子体で刊行されているほか，東大大型計算機センターの学術情報データベースの一つ TOOL-ULP としてオンラインによる検索ができ，先搬，大学図書館での利用が可能となった。この欧文編データベースには，約500機関の９万２千タイトルの学術雑誌のデータが含まれており，冊子体よりも詳細な巻号と館名データが検索できる。

（整理課長）

第４回 EDC セミナーに出席して

逐次刊行物掛長　湯 本 一 義

標記のセミナーが５月26日～27日の２日間，同志社大学法学部において行われた。

現在，本館はＥＣ資料センター（EDC）となるべく申請中であるため，オブザーバで参加を許されて，始めて出席したものである。

EDC は，国連等の国際機関の資料館と同様に広報活動の一環として，地理的分布を配慮しながらも更にＥＣ諸国を中心としたヨーロッパの研究あるいはリサーチを推奨するため，ＥＣ研究者のいる大学（学部）に開設されている点が特徴である。

セミナーでは，各館の近況報吉，レファレンスの事例報吉，運営上有効な資料の紹介，研究発表の他，駐日ＥＣ委員会代表部資料室長ジョルジュ・ドゥブレル氏により，「ＥＣ刊行資料について」と題して，閣僚理事会の指令がどのようにして生まれ，育っていくか，出来上ったその指令法が各加盟国に採用されていく課程までの詳細な講義が行われた。

さて，本館は既に国連資料（1965寄託図書館）OECD 資料（1970協力資料館）が研究閲覧室の一遇に配架されている。ＥＣ資料センターの開設は，早ければ来春には実現すると思われる。前二者の利用状況は，収集資料の内容や，受入時期の問題もあろうが，はっきり言って大した事はなく，毎年開催されている国連寄託図書館会議で事例報告の内容もなく，活発な活動をしている図書館とのギャップが大きく，担当者として出席する事が苦痛になっている有様である。ＥＣ資料については，駐日ＥＣ委員会の御努力も大きく，到着資料の内容も新しい様だし，月刊で日本語訳付きの資料目録が配られている等，活用し易い条件もあるので，担当掛としても大いに利用していただけるものと期待している。セミナー参加を機会に，私達も勉強を始めています。又国内のセンターと横の連絡もとれるようになりましたので，何かお役に立てる事もあると思います。開設が正式に決定された時点で再びお知らせ致します。

昭和57年度特別図書購入報告

特別図書購入費（文部省配分）によって，下記資料を購入し本館に備付けましたのでご利用下さい。

図書資料名	巻号	刊年
English Legal Sources: Printed English Literature up to 1800. 101 Titles. 初期英国法学基本文献集成		
Juvenile Law. 94 Titles. 少年法		
Annual Report of the Secretary of the Treasury on the State of the Finances. 1930-1946. 米国財務長官財政年次報告書　復刻版		1930-1946
司法省日誌　全16巻　復刻版		1873-1876
Bayle, Pierre: OEuvres diverses. ベイル著作集	Bd. 1-5, Suppl. Bd. 1-2.	
Энциклопедический Словарь Гранат. グラナート百科事典　7版　復刻版	T. 51-55, 57-58.	1982
Early English Books. STC I. Units. 49-50. Reel no. 1699-1737. STC II. Unit. 43. Reel no. 1273-1297. Unit. 45. Reel no. 1322-1346. 英国古書集成		1982
Europa Archiv. ヨーロッパ　アルヒーフ	Jg. 1-34	1946-1979
Deutschland Archiv. ドイツ問題雑誌	Vol. 1-14	1968-1981
Philosophy of Science. 科学哲学年報	Vol. 1-3, 9-18, 23-25	1934-1958
Revue D'histoire Moderne et Cntemporaine. フランス近現代史	T. 1-19	1954-1972
New York Times Index, 1958-1972		1958-1972
清末・民国年間刊行 新聞・雑誌・影印シリーズ　復刻版		1919-1949
東方雑誌　復刻版	1-16巻	1904-1948
雑誌「童話」　復刻版	1巻1号-7巻7号 解説(付録)	1920-1926
教育時論　復刻版	53-62巻 (470-529号)	1898-1899

昭和57年度下半期文献複写実績

国立大学図書館間等で取扱われた文献複写の本学に於ける昭和57年度下半期（10月～3月）分実績は下記のとおりです。

区分 / 図書館名	受付 件数	受付 金額	依頼 件数	依頼 金額
	件	円	件	円
中央図書館	432 (133)	562,665 (125,190)	103 (221)	252,575 (263,800)
医学分館	1,015 (524)	460,240 (253,405)	30 (225)	15,385 (126,545)
北青葉山分館	605 (115)	412,345 (67,015)	144 (65)	96,392 (41,710)
工学分館	316 (12)	144,735 (4,925)	125 (10)	51,405 (4,695)
農学分館	150 (29)	72,175 (10,865)	28 (72)	10,085 (43,110)
合計	2,518 (813)	1,652,160 (461,400)	430 (593)	425,842 (479,860)

(注) 表中の（　）内は私費で外数を示す。

昭和57年度下半期（10月～3月）分文献複写受付および依頼国立学校別実績は下記のとおりです。

区分 / 学校別	受付 件数	受付 金額	区分 / 学校別	依頼 件数	依頼 金額
	件	円		件	円
福島大図	52 (1)	27,340 (300)	東大図	13 (45)	38,985 (61,600)
岩手大図	45 (6)	22,150 (8,460)	一橋大図	5 (48)	2,905 (60,375)
新潟大図	15 (16)	8,555 (9,515)	山形大図	23 (5)	35,170 (3,250)
一橋大図	3 (28)	1,400 (11,095)	京大図	7 (15)	79,885 (38,990)
茨城大図	18 (3)	9,970 (1,100)	東芸大図	19	2,420
島根大図	18 (3)	2,510 (1,320)	名大図	5 (13)	2,885 (7,155)
弘前大図	15 (5)	12,860 (4,010)	北大図	3 (11)	1,760 (13,890)
筑波大図	13 (5)	95,840 (7,660)	広島大図	4 (3)	1,395 (4,040)
三重大図	17	8,930	千葉大図	2 (4)	870 (1,905)
秋田大図	14 (1)	7,480 (210)	金沢大図	5	2,030
その他	222 (65)	365,630 (81,520)	その他	17 (77)	84,270 (72,595)

(注) 表中の（　）内は私費で外数を示す。
中央図書館受付および依頼件数の多い上位10の国立学校を掲げた。

東北大学記念資料室だより

○ 6月22日の本学創立記念日をふくむ一週間，本室では例年のように「東北大学の歴史に関する資料展」を開催した（6月20日～27日附属図書館エントランスホール）。本年は創立76周年であって昨年のような格別な年ではなく，規模ははるかに小さかったけれど，ハンス・モリッシュ先生の遺品や蘇歩青先生の軸物などの新資料とともに，安井曽太郎の玉虫先生像や片平丁事務局前の歌碑の原作となった岡崎義恵先生の「みちのおく東北帝国大学の」の軸物などの貴重な資料が，約30点ほど陳列され熱心な来観者をひきつけていた。

モリッシュ先生は大正の末に本学理学部生物学科が創設されたとき招かれて教室の充実に力を貸した碩学で，14年来日し，来仙したアインシュタインとの奇遇をよろこび，物理学教室の壁に毛筆で名前を並べて書きのこした人で，帰国後ウィーン大学の総長となった。手稿や書簡のほか愛用の洋風枕などをふくむ遺品は，関係の方々で大切に保存され，結局相馬教授から本室に収められた。

蘇歩青先生は本学理学部数学科を昭和2年に卒業し，6年に理学博士の学位を得た英才で，中国の学界を代表する高峯の1つに数えられ，戦後は上海の名門校復旦大学の総長等の要職にあることほとんど30年に及んだ。中国の人名事典によると，仙台での大学院時代には図書館のパート・タイムで生活をたてたとある。この度の訪日にあたり，母校東北大学に表敬し，自作の詩を表装して学長に進呈されたのである。近頃，格調正しい漢詩（七言律詩）をもって青葉山キャンパスや東北大学を詠じた作品をあまり聞かないので，そのまま御紹介しよう。軸の表題には「献呈　東北大学蘇歩青」とある。詩は

回首仙臺五十年　重来黌舎已聯綿
紅櫻枝下疑無地　青葉城頭別有天
處々弦歌令勝昔　莘々学士秀而翩
當時師友幾人在　依舊清音廣瀬川

初訪母校新舎於青葉城感賦青奉
東北大学誌謝　　復旦大学　蘇歩青

こまかな注釈は遠慮するが，要するに，50年を経て仙台を訪れたら昔の校舎が残っていてなつかしい桜が足の踏場もなく敷布いていた。そうして青葉城のほとりの新しいキャンパスに母校は移っていた。花を賞でる歌声はきこえて，青春の昔を想出させてくれるが，その若者たち――私の後輩は学者としてもまた立派に活躍しているのである。しかし50年昔のわが若き日の先生や友人はいま幾人残っておられるであろう。時の流れのきびしさよ。ただ昔と少しも変らぬのは清らかな音をたてている広瀬川である。

初めて母校の新舎を青葉城に訪い，感ありて賦し書してたてまつる。東北大学誌謝　復旦大学　蘇歩青

○ 「東北大学創立75周年記念　東北大学記念資料蔵品目録1　昭和58年3月　東北大学記念資料室」が刊行された。昨年6月挙行された本学創立75周年記念事業の1つとして開催された本室の展示を機会として，計画され編纂されたものである。当時の前田四郎学長や服藤弘司室長の配慮や要望によってはじまったが，本室としては創立以来20年間（昭和38年～58年）の収集物のはじめての目録化であるので，それを年度内に完成刊行するのはかなり無理だったのが事実である。その結果，蔵品の一部（主として学内刊行物と写真類と）を次回にまわし，B5版100ページ余のものとして世に贈ることとなった。大学史の資料を全

学的に統一をとって収集することは，今後ますます重要なこととなるであろうから，この目録は全国の大学から参照されることは疑いない。わずかに半年余の編纂期間に，学長も室長も交代してしまわれた。しかし，前田前学長は序文をよせてその間の意義を論じ記念資料室事業の発展を希望しておられる。

この目録は学内・学外の関係機関に寄贈する予定であるが，従来本室へ寄贈された方々や協力を賜わった方々へもなるべく配布し，さらに本室に関心をよせ種々の御協力を下さる方々にも出来るならば差上げる予定と聞いている。団体個人をとわず，書信のかたちで，本室に対し寄贈依頼をよせていただき，本室は多くの方々の御関心と御協力を得て，蔵品が飛躍的に増大することをのぞんでいるからである。

第30回国立大学図書館協議会総会

日時　昭和58年6月9日（木）～10日（金）
会場　北海道学生年金会館
本学出席者　吉岡図書館長，谷本事務部長，竹原総務課長，熊谷整理課長，佐藤医学分館事務長

標記総会が北海道地区協議会当番，北海道大学が会場館となり札幌市で開かれた。

総会中の札幌市は生憎の曇り空だったが，会場は豪華で明るく，行き届いたサービスは地区協議会と会場館の御苦労がうかがわれ，快適な2日間であった。

総会には全国の国立大学附属図書館長，事務（部課）長等約220名が参加し，文部省からも廣田情報図書館課長，倉橋専門員，糸金大学図書館係長が列席された。

総会は例年のとおり一般経過報吉から始まり，各種委員会報吉，役員選出が行なわれ，続いて図書館協議会賞受賞者表彰が行なわれて今年度は東京大学理学部羽鳥浅子氏の数学分野の Data Base SOLID-M の作成—国際会議録・議事録について—に決定，表彰式の後，謝辞がのべられた。

午後は研究集会に先立ち，廣田情報図書館課長の挨拶と文部省所管事項の説明があり，特に近時の財政事情の厳しさから各大学における各種の改善，工夫の要望があった。

研究集会のテーマは学術情報システムと地域の協力体制で，九州大学，名古屋大学の学術情報課長，京都大学の整理課長からそれぞれの大学で取り組んできた経緯と現状の発表があり特に京都大学の発表は今から導入する大学の学内体制及び地域大学との取り組みについてであり，本学に通じるところもあって大変印象的であった。

第2日目 午前の分科会においては第一分科会（運営・サービス）第二分科会（予算）第三分科会（人事）で各大学から出されている協議題に基いて活発な討論が行なわれ，午後の全体会議で各分科会の主査から要点の紹介があった。第一分科会では学術情報センター設置の促進が主であって，予算事情の厳しい状況下にあってもこのシステムが高等教育投資の延長線上にあり，高いレベルでの対応策が必要である等の意見があったことが，第二，第三分科会においても学術情報システム関連の予算措置，職員の研修機会の増加等について論議されたことの紹介があった。

以上で2日間にわたる議事は終了し，次期会場館，愛媛大学附属図書館長の挨拶に続いて，会長，会場館館長の閉会の挨拶があり，総会は盛会裡のうちに終了した。

なお，第一日に行なわれた役員改選の結果，会長館に東京大学，副会長館に京都大学，東北大学が再選された。（総務課長）

「マルクス関係資料展」の報告

K. マルクス永逝100年を記念して，6月4日（土）～6月18日（土）の間，本館エントランス・ホールにおいて，標記の資料展を開催した。

本学の経済学の関係教官の熱意と尽力により実現した資料展であるが，館蔵文献に加えて，マルクスの肖像ポスター・墓碑写真・マルクス居住当時のロンドンの市街図・昭和初年の改造社と聯盟社の競合するマルクス・エンゲルス全集の新聞広告のキリヌキ等々も関係教官から出陳され，興趣のある展示会となった。

「Misère de la philosophie」（初版本。マルクスの書き入れ等多し。），「Le Capital」（ラシャトル版。マルクスの自署等あり。）等の貴重書については，特に本号巻頭に馬渡尚憲教授（経済学部。展示会の企画に参与され，目録の解説をも執筆された。）ご寄稿による紹介をいただいているが，約20点の展示図書は決して多い数ではなかったものの，殆どが初版であることに加えて，個々の図書が書き入れを含めて個性的な経歴を有しておるものが多く，期間中，多くの研究者の熱心な目が注がれていたことである。

「マルクス」のテーマでは初めての展示会であったが，大変有意義な資料展となり得たことを思い，ご尽力いただいた関係の先生方に深甚の謝意を表しながら，報告とする次第である。

会　議　等

○「学術雑誌総合目録和文編新版データベース」のデータ提出及び説明会
　と　き：昭和58年6月23日
　ところ：東京大学工学部
　出席者：逐次刊行物掛　佐藤義則

○昭和58年度国立大学等事務電算化講習会
　と　き：昭和58年6月29～30日
　ところ：福島大学
　受講者：閲覧掛　南館義孝

○昭和58年度大学図書館職員長期研修
　と　き：昭和58年8月4日～24日
　ところ：図書館情報大学他
　受講者：受入掛　佐々木勝義

○東北地区大学図書館協議会幹事会
　と　き：昭和58年8月31日
　ところ：当館会議室
　出席者：吉岡館長，谷本事務部長

○第4回大学図書館研究集会
　と　き：昭和58年9月11～13日
　ところ：国立婦人教育会館
　出席者：洋書目録掛　阿部佳市

お　知　ら　せ

調　査　研　究　室

○　学内の図書館システム（本館・分館・部局図書室）に勤務している方々で，かねてから図書館学の調査研究に関心をもち，成果を手もとにもっておられる方々は，本年度の本学附属図書館発行の「図書館学研究報告16」に応募投稿して下さい。申込み月日はもう過ぎましたが，まだ可能性がありますので，なるべく早く申出て下さい。9月30日が原稿〆切であります。

昭和58年度総合研修委員きまる

今年度の総合研修委員選出のための選挙が去る5月19～20日の両日実施された。その結果下記の5名が委員に選出され，この1年間職員研修の企画実施にあたることになった。

委員長　石田義光（参考調査掛長）
委　員　佐藤正弘（相互利用掛長）
〃　湯本一義（逐次刊行物掛長）
〃　川村隆男（書庫掛長）
〃　星政則（和漢書目録掛）

永　年　勤　務　者　表　彰

本学創立記念日の6月22日，松下会館において永年勤務者の表彰式が挙行されました。

本学に通算20年勤務し，職務に精励されたことにより，学長から表彰状と記念品を贈られましたが，附属図書館の該当者は次の方々です。

総務課	鈴木一郎
閲覧課	川村隆男
北青葉山分館	藤沢和子
工学分館	栃原孝夫
農学分館	中島　甫

人　事　異　動

医学分館長に笹野伸昭教授就任

医学分館長に，笹野伸昭教授が，昭和58年8月1日付けで併任されました。

任期満了に伴って，山本敏行教授と交替するもので，併任の期間は昭和60年7月31日までです。

訂　正　等

Vol. 8 No. 1

p. 1　目次

誤	正
十一世紀「聖ベネディクト」……	11世紀「聖ベネディクト」……
第13回国立大学図……	第14回国立大学図……

p. 11　昭和57年度図書受入冊数調

	誤	正	誤	正
大型	94	56		
	11	49		
合計	31,133	31,095	34,654	34,692
	37,941	37,903	44,062	44,100

p. 12　会議等右

誤	正
事京医科歯科大学	東京医科歯科大学
第13回　国立大学図……	第14回国立大学図……

p. 13　人事異動

誤	正
上山茂美	上山成美

東北大学附属図書館報「木遣子」　第8巻　第2号（通巻第30号）発行日　昭和58年8月31日
編集委員長　千葉龍郎　編集委員　橋本美知子，松元義正，阿部佳市，吉川和幸
発行人　谷本幹男　発行所　東北大学附属図書館　仙台市川内　電話 代表 22-1800（2408）